

平成 31 年度 1 学期 始業式 式辞

校長 中西 朗

おはようございます。いよいよ新年度が始まりました。

一年の計は元旦にありと言いますが、ここでは、新年度の計は一学期の始業式にあり。と言いたいところです。

皆さんは、気持ちも新たに、よーし頑張ろうと期待や希望に胸を膨らませていることと思います。いかがですか。各自が自分のできる範囲で目標を設定し頑張っ
てほしいと思います。新しいクラスで心機一転して頑張っしてほしい。

先日の終業式では、この一年間、学校の中で一番印象に残っている事柄は何でしょうか。という話をしましたが、新しい年度においても、少なくとも 1 つは、そういう事柄を作り出してほしいです。

今日は、2 つだけ話し式辞としたいと思います。

①記念すべき新しい時代 令和元年を県宝在学中に迎えることのできる喜び。

令和という元号が 248 番目になることは、去年の式辞で話しましたが、247 番目までは中国の漢詩から引用して決めていたそうですが、今回初めて、日本古来の万葉集から考えられたということです。新しい時代にふさわしい元号で、時間が経つにつれて、生活の一部になってきたように思います。私自身は、昭和、平成、令和と 3 つの時代を股にかけて学校に勤めることができてこの上ない幸せであります。

②午後の 57 回生の入学式でも伝える予定ですが、

次の時代は、科学技術の進化のスピードが想像以上に速まると思います。

私たち人間が作ったものに、私たち人間が支配されてしまうのではないかと錯覚してしまいそうなぐらいです。例えば、自動車の自動運転の技術開発においては、世界中のメーカーが競い合っています。来年の東京オリンピックでは、特定路線に限って自動車の自動運転が開始されると聞きます。いつの日か、車の中で本を読みながら目的地に到着できる日が来るでしょう。また、ドローンによる宅配や空飛ぶ自動車などが、近い未来に現実となってくことは間違いなしです。

こういう時代だからこそ、私達は、基礎・基本をしっかりと身につけ、あらゆることに適応できる能力を養わなければなりません。

皆さんも今日から 1 つ進級します。多くの後輩達の先輩として県宝を引っ張って行ってほしいと思います。

皆さんにとって素晴らしい 1 年となることを期待し、式辞といたします。